

午前11時10分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、13番大庭きみ子議員の質問を許可します。13番大庭きみ子議員。

（13番大庭きみ子君登壇）

○13番（大庭きみ子君） 皆様こんにちは。13番大庭きみ子でございます。本日はお忙しい中に議会傍聴においでいただきましてありがとうございます。また、インターネットで傍聴していただいています皆様方、ありがとうございます。

早いもので九州北部豪雨災害より2年が過ぎております。毎年大雨による被害が出ており、復旧・復興には、まだまだ時間がかかりそうです。多くの課題が山積しておりますが、人口減少問題、少子高齢化問題は、避けては通れない問題であります。

今、人口減少、少子高齢化が急速に進む中、新たな地方再生の方策として注目を集めているのが関係人口という考え方があります。全国の地方自治体が移住定住に力を入れておりますが、どこかの定住人口がふえれば、結局どこかが減ることになる、そんなゼロサムゲームではなく、人口が減ることなく、ふえることばかりで地域を元気にできる第3の人口があります。そんな新たな地方再生策として注目を集めている考え方が関係人口です。

関係人口とは、移住に至らないまでも、地域のファンとして、その地域の魅力を発信してくれる人、長期的な、移住した定住人口でもなく、短期的な観光に来た交流人口でもない、地域や地域の人々と多様にかかわる人のことです。

また、関係人口には、観光地への訪問をきっかけに、段階的に移住に至る人々もあれば、移住はしなくとも特産品の購入やふるさと納税など思いを寄せる地域に積極的に関心を持ち続け、貢献しようとする人々も存在します。

朝倉市は、災害で甚大な被害を受けましたが、今でも復興支援の一助に、道の駅や観光地を訪れたり、被災地の視察も続いております。また、ふるさと納税をしていただいている方々も多くおられます。

先日も、地元が被災しているにもかかわらず、久留米市内や北九州市内の9つのライオンズクラブから、街頭での朝倉市への復興のために募金活動をされて、その寄附金をいただいたりしています。まだ多くの方々が朝倉市を応援していただいています。その期待にこたえるべく地域を元気にするためには、移住、交流の促進とともに、ふるさと応援団である関係人口の創出を政策として推進していくことが必要であると考えております。

その取り組みの一つとして、朝倉市の観光をきっかけに、朝倉市が好きになって、朝倉市の応援団になっていただきたいという期待を持っております。その観点で、観光行政について、また高齢ドライバーへの支援などの質問をしてみたいです。執行部におかれましては、明解な回答、よろしく願いいたします。

（13番大庭きみ子君降壇）

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） それでは、通告書に従い、最初に高齢ドライバーへの支援について質問いたします。

本格的な人口減少と超高齢社会の到来とともに、高齢者ドライバーは年々増加を遂げています。ことしの4月には、東京池袋で、アクセルとブレーキを踏み間違えて、88歳の高齢ドライバーの車が暴走し、31歳の母親と3歳の子どもが亡くなっております。6月には、福岡市早良区で高齢者運転の車が逆走し、多重事故を起こし、運転していた81歳と76歳の御夫婦が亡くなられております。まだ記憶に新しいところではありますが、テレビや新聞では、毎週のように高齢ドライバーが引き起こす交通事故が伝えられています。

朝倉市の免許人口は3万6,914人ですが、65歳以上は1万1,411人で、約31%となっています。これは県内でも高い数値になっています。約3人に1人が高齢ドライバーであります。70歳以上の免許人口は7,189人となっており、約19%となっています。朝倉市における高齢者の事故件数は、1年間で74件であり、このうち高齢者の運転による事故は49件でありました。昨年より5件増加しております。年々増加してきているということでもあります。

全国的には、安全運転サポートカーの導入で、少しずつ減少傾向にあるようですが、朝倉市の場合は、まだ安全サポートカーの導入は少なく、事故が増加しているようです。不幸な事故を招かないための高齢ドライバーの対策が必要だと思います。

今、アクセルとブレーキの踏み間違えによる事故を防ぐために、後づけで安全装置がつけられるようになっていきます。8月31日付の西日本新聞に、「高齢事故防止、広がる助成」という見出しで、九州7県の中で5市町村が安全運転サポートカーや後づけ安全装置への助成をしており、26自治体が検討していることが、アンケートの結果で出ておりました。朝倉市でも、70歳以上のドライバーに、この安全装置の後づけへの補助金制度を導入していただけないかと思いますが、朝倉市としては、どのようにお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 高齢者の踏み間違いという形の中で、近年、特にいろんなところで、そのニュース等が目につきます。高齢者による交通事故を未然に防ぐためには、安全サポート機能付車両の普及、あるいは運転免許制度の見直しで、総合的に取り組んでいくべき社会の課題ということで認識をしております。

先ほど大庭議員のほうから、65歳以上、あるいは朝倉市全体での免許保有者の数値については御紹介がありました。朝倉市については、やはり車社会というところがありまして、高齢者の免許保有率は県の平均よりも高いというのは、我々のほうも把握をしているところでございます。

現在、福岡県内において、この補助事業を実施しているのは、この前、新聞でも紹介が

ありましたように、うきは市の踏み間違い防止装置等の設置補助、それから、これは苅田町になりますが、苅田町の安全サポート機能付新車購入補助というのがございます。

今後、朝倉市としましても、国や県の動向、特に補助事業や交付税措置等について注視をしながら、踏み間違い装置等を助成する制度の費用対効果やその有効性について、情報収集を行っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） 今御紹介がございましたように、お隣のうきは市でもことしの4月から、この補助金制度が導入されております。これは対象は70歳以上の免許証所持者で、設置後3年以上は利用することとなっております。対象装置は、踏み間違い防止装置と安全運転支援機能を有するドライブレコーダーで、費用の半分を補助されています。ただし、上限は2万2,000円で、ドライブレコーダーを同時に設置する場合は、上限額に1万5,000円を加算されることになっております。

ことしの4月から導入されておりますが、既に46人と予算を超える申し込みがあり、新たに9月の補正予算で、あと残り60名分、約200万円の補正が組まれる予定となっております、大変好評で反響が大きいということでありました。

これは、踏み間違い防止なので、停止したときに、発進するときに、アクセルとブレーキを間違えない装置なんですけど、よく事故が多いのは、どうしても停止して、駐車場から出るときとかに、ブレーキとアクセルを間違えて踏み込み過ぎて、発進して事故を起こすというケースが多いそうです。だから、100%事故を防げるわけではないんですが、そういう初歩的なミスは、まず防ぐということで、できるところからということで補助が出されております。

安全サポートカー購入についての補助が出ている自治体もございますが、なかなか新しい車を買いかえる経済的な力のある高齢者の方ばかりではございませんので、今使っている車を安全に使うために、安全装置をつければ、事故を未然に防げるのではないかなと。本当に悲惨な事故がたくさん起きておりますので、こういう犠牲にならないためにも、ぜひとも考えていただきたいと思っております。

だから、まずできるところから、大きな補助金ではなくて、こういう安全装置をつけるとか、ドライブレコーダーをつけるとか、その分の2分の1の補助とか、最初は100万円の予算だったそうですが、こういうことからでも一歩でも踏み出していけば、意識がまた変わってくるのではないかなと思っておりますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） これは決して否定することでもございません。ただし、予算というのが確かに伴います関係上、今先ほど述べましたように、国あるいは県の動きも当然あります。既にそういう声も聞き及んでいる状況もございますので、この場で「やります」と言うことはできませんが、当然、今後、そういったふうで高齢者の事故防止という

こともございますので、今回、大庭議員のほうからお話があった分については、我々執行部としましては真摯に受けとめたいと思いますので、よろしく御理解方をお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） ぜひとも、本当に未然に防ぐことが大事かなと思っております。特に、朝倉市は、かなり面積が広うございまして、やはり車がないと買い物にも行きづらい、病院にも行きづらい、どうしても車を運転せざるを得ないという高齢者の方もたくさんおられます。本当に体力が弱って車に乗れなくなってしまうと、免許証を返上されるんでしょうが、その間の助成ということで、やっぱりこれは必要ではないかなと思っております。本当に車がないと生活しづらい方がたくさんおられます。

それと、これは最初につければ、もう10年ぐらい車は用いると思いますので、1回つけておけば、その方が次買い直されるまでは使えるものなんですね。だから、うきは市でも3年間ぐらいの計画で、本当に今必要な方だけがつけていくというような制度でやられております。もっと車が古くなってくれば、もう安全装置付サポートカーを最初から購入されると思いますので、今持っている車を何とか安全に乗っていきたい、それはもう四、五年かもしれないし、3年以上は使うということが、うきは市では限定になっておりますので、3年以上使う方で、今の対応が必要なんではないかなと思うんですね。だから、今つけて。だから、ずっとこれが永久的につけていけなくちゃいけないということではなくて、今必要な方々に普及をしていただいで、余裕ができれば、安全サポートカーを購入していただくとか、次の段階に入っていくんではないかなと思いますので、ぜひ高齢化率が高い朝倉市では、やっぱり安全対策として必要な政策だと思っておりますので、うきは市で100万円ということでしたので、そういう予算を何とか捻出していただきたい、計上していただきたいと思っております。

今、総務部長からもお答えいただきましたけど、市長はどういうふうにお考えでしょうか。この高齢化している朝倉市の中で、こういうお年寄りの方々が安全に運転できる制度として、私は有効ではないかなと思っておりますが、お考えをお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） うきは市の取り組みにつきましては、承知しております。うきは市の考え方は、今議員が言われましたように、やっぱり車がなくては、どうしても生活がしづらいということ等が、この事業の一つの発想点ということも、直接、私、お聞きを実はしております、議員が言われますように、まずは、次に返納の御質問もいただく予定になっておりますけれども、それでも高齢者の運転の事故を未然に防止するという観点からのお尋ねでございますので、今、総務部長が申しあげましたように、国・県の動きもあるようでございますので、やはりそれはしっかりと見ながら、市としてもしっかりと検討

してまいりたいということでお答えをさせていただきます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） 国・県への要望も上げられていくということも聞いておりますので、ぜひとも一緒になって、国・県と一緒に、朝倉市も前向きに取り組んでいただきますようによろしくお願いをいたします。

次に、運転免許証自主返納の取り組みの現状と、今後の促進対策についてお尋ねいたします。今の現状をお答えください。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 高齢者の運転免許証の自主返納の取り組みの中での実績ということで御紹介をいたします。これ8月の27日現在ということで紹介をいたします。

昨年、平成30年度は、申請者が157名ございました。令和元年におきましては、8月の27日現在で63名の方が申請をされております。ちなみに、平成29年は162名でございました。高齢者の免許証の自主返納の実績でございます。紹介いたします。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） それでは、その返納された方へのサポート、そういうことは、どのようなことがされていますでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 現在、70歳以上で運転免許証を自主返納された高齢者に対し、コミュニティバスで使用できる回数券、または交通系ICカードの「ニモカ」、どちらか1万円相当分を支援しております。

こういう状況で、このうち、先ほど言いました平成30年に157名の方が自主返納された。先ほど言いますコミュニティバス等の使用の回数券を求められたというか、お受けしたのが31人でございます。それから、交通系のIC「ニモカ」、126名の方に交付をしております。現状でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） 少しずつ自主返納もふえてきているのかなと思いますが、まだ横ばいですね、本当に70歳以上になりますと、免許更新も1年置きに更新したり、認知症の検査があったりとか、かなり制度的に厳しくはなっているようでございます。でも、本当に車がないと、やっぱり生活できないという方もたくさんいらっしゃるって、こういう回数券とかニモカとか、そういう特典をつけておられるということは、とてもいいことだと思います。これももう少し普及をしていただいて、本当に、なかなか自主返納というのは、本当に大変心苦しい、辛い決断らしいんですね。とても返納するのは耐え難いと、これがなくなると、自分の自由がなくなる、交通手段がなくなるというふうに、本当に悩まれている方も多いたは聞きますので、自主返納、できれば、こういう回数券をいただけるということで、推進、啓発もよろしくお願ひしたいと思ひます。

でも、やっぱり乗れる間は乗りたいという思いも大変強いと思いますので、安全に乗れる対策と、どうしても体力的にこうして免許証を返納しなければならないというときが来た場合には、こういうサポートもありますということ、ぜひ市民の方々にも広く、また周知をしていただきたいと思います。と思っています。

それと、高齢者の方が免許証を返納した後に、やっぱり交通手段がなくなって不自由な生活を余儀なくされているという方々も、やっぱり聞くんですね。これは6月の議会で中島議員も一般質問に上げられておまして、市長も答弁の中で具体的に検討して、交通手段として、なるだけ心配がないように取り組みたいというように答弁をされておりました。地域の中での交通手段の確保について、その後、どのように検討されているのか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 6月の一般質問の中でも、コミュニティバス、あるいはいろんな市内に巡回しております交通機関について、まず、このことを知ってもらおうというところの部分で、いろんな機会を与えながら、このバスが巡回していることを知ってもらおうということにも引き続き取り組んでいきたいと思いますし、市職員においても、まだまだ乗ったことのない職員もいたということでございますので、そこあたりについても、その後、お話をしているところでございます。

先ほど言いますように、高齢者の方たちに、少しでもこういったふうな免許を返納した後に、こういう市内のコミュニティバス等に乗ってもらおうということにつきましても、例えば、いきいきサロンとか、その中での高齢者が集う場において出前講座に出向きまして、その利用の部分を図ったり、あるいは免許返納を行うときの警察署においても、この事業を図っているところでございます。

言いますように、コミュニティバスの部分について、あいのりタクシーから朝倉地域のコミュニティバス、それからあいのりスクールバスとか、いろんな循環の部分がございますので、このことをいろんな機会を使いながら市民のほうにお知らせをします。もとよりホームページはわかりでしょうし、広報紙等でも引き続き継続をしていくということを主眼に置きながら、今後も展開していきたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） ぜひとも市民の皆様方に、今はコミュニティバスとかデマンドバスとかございますので、そういうことの周知、ぜひとも広報をお願いしたいと思います。

そして、やっぱり生きがいなくなったり、車を運転しなくなると引きこもってしまうとか、そういう話も聞きますので、ぜひとも、さっき保健福祉部長も北川議員の質問にお答えされてありましたが、やっぱり生きがいづくり、高齢者の方の引きこもりにならない、そういう生きがいづくり、地域いきいきサロンとか、いろんな活動があつておりますので、そういうことも周知していただいて、ぜひとも安心・安全で高齢者の方に優しいまちづく

りのために、今後とも対策をよろしくお願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。次の質問は、朝倉市の観光行政について質問いたします。

先ほども、ちょっと冒頭で述べましたが、本当にこの朝倉市は、豪雨災害を受けまして、大変な復旧・復興が、まず最優先されておりまして大変な状況になっております。しかし、その中で人口減少問題というのは、この朝倉市の今後の大きな課題でもあると思っています。ピンチをチャンスにかえる、その仕組みづくりを、復興とともに考えていかなければ、元気な朝倉市を取り戻せないのではないかと思います。何とか朝倉市を元気にするためには、交流人口や関係人口をふやし、人口減少に少しでも歯どめをかけていかなければならないと思います。

多くの問題が山積している中で、明るい展望が開けないかなと思うのですが、市長に、この朝倉市の環境ビジョンについて、どのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 議員が言われますように、現在、朝倉市では、昨年3月に策定いたしました豪雨災害からの復興計画という、これに基づきまして、復旧、そして再生、そして発展期ということで計画をつくっておりまして、これに基づきまして、現在は復旧期ということで、平成29年、平成30年、令和元年ということで、一応形としては復旧期の3年目ということでございます。

そして、再生期ということで、大まかな目安はつくってございまして、これを当然のことながら復旧も時間がかかっていくということも当然でございますし、そして復興を見据えて、いろんな施策を準備したりやっていくということは、当然、必要でございます。

こういった考え方で私はございまして、特に、お尋ねの観光面におきましては、まさしく発展するための、ある面では準備の段階でもあると思いますし、当面する地域経済、それから人口減少、そういったことを考えると、待ったなしの朝倉市の元気を保ちながら復旧に向けていくという視点も必要でありまして、そういった面からいたしましても、観光に対するいろんな施策を考え、そして、これまでいろんな動きを民間のほうでもやっていたいただいておりますし、市のほうでもやってきたところでもございますので、こういったことを総動員をいたしまして、しっかり取り組んでいくということだというふうに考えているところであります。

まさしく極めて大きな災害でございましたので、多くの方に御支援をいただいていたということがございます。朝倉市の名前が、不幸なことを原因としてではありますけれども、名前が売れたということはあります。しかしながら、これがいつまでも続くわけでは、当然ないと。災害による朝倉市の、いわゆる知名度が、いつまでも続くわけではございませんので、今のうちにしっかりと対応をしていかななくてはならないというふうに思っているところであります。

それから、関係人口のことを力説をされましたけれども、まさしくこのことは、今後の朝倉市の市の力、そしてまた発展する大きな考え方にとって必要でありますので、そういう視点からも、しっかりと災害というものを一つのバネにいたしましてやっていくということと、インバウンド、これを今取り組もうと考えておりますので、このことにも力を入れていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） ありがとうございます。本当に、今市長も申されたように、朝倉市は不幸にして災害が起りましたが、その知名度は、今全国版になっております。朝倉市をまだ応援しなければという方々もたくさんおられることは、本当にありがたいと思ひています。それを本当に、この時期に、やっぱりバネにして、朝倉市が復興していく新しい朝倉市を皆様方に見ていただく、こんなに元気になりましたというのも、それも大事なことだと思ひし、皆様方も期待されていることではないかなと思ひます。それに向けて、今、この朝倉市が大変厳しい状況ではございますが、やっぱりふんばらないといけない時期だと思ひます。そのチャンスが、私は少し兆しが、今出ているのではないかなと思ひております。

その一つとして、ことしの11月に嘉麻市と秋月を結ぶ八丁トンネルが開通いたします。これも北九州から久留米までを結ぶ、大変利便性もよくなることが期待されておりますし、それに伴い、交流人口の増加も期待できると思ひております。この交流人口をどう関係人口に結びつけていけるのか、そのあたりがこれからの知恵の出どころだと思ひておりますが、行政といたしまして、どのくらい人口が見込めるのか、経済効果がどういふふうに見込めると思ひてあるのかお尋ねをいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） 八丁トンネル開通に伴いまして、その交流人口、その関係人口がどのくらい見込まれるかということでございますけれども、これにつきましては、一応、商工観光課のほうといたしまして、八丁トンネルの開通後に北九州方面からの誘客を狙うため、今2つの取り組みを行っております。

1つは、嘉麻市との連携事業となっております。平成26年、NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送を契機としまして、両市の観光部署の交流が始まり、平成28年、連携事業を実施していくことで合意をいたしております。翌平成29年度には、朝倉・嘉麻広域観光協議会を設立し、以後、両市にまたがります古処連山を紹介する登山マップの制作や、登山愛好家向けのイベントの共同出展、互いの祭りへの出展などを行っております。

特に、マスコミなどに取り上げられた事業として、名前のない山に名前をつけるという全国的にも珍しい事業を実施いたしております。こちらについての応募につきましては、全国から1,200人を超えて、江川岳という名前に決定しております。イベントなどでも周知を行ってまいっております。また、本年2月、国土地理院の地図にも掲載をされてお

ます。

今年度の事業につきましては、八丁トンネル開通の直前のイベントとしまして、市報等でも御存じのとおり、10月22日の火曜日になりますけども、その日にトンネル内を歩き、あわせて綱引きもしようという事業を企画しております。募集人員につきましては、国道の番号にかけて、両市をあわせて322人、現在参加者を募集中となっております。

2つ目は、北九州方面からの誘客を図る事業としまして、平成29年度から九州経済産業局と連携して、小倉駅近くの魚町商店街でのイベントを実施しております。この事業には、あさくら観光協会のほかに、三連水車の里あさくらにも出展いただき、その後、水車の里は不定期ながらも継続して、出張販売を行っております。

そういう取り組みによりまして、朝倉市の知名度向上に努めておりますし、また、そういうイベントの中で、いろんな周知を図りまして、それによりまして、広く交流を図られるものと思っています。交流事業の見込みにつきましては、そういうイベントを通しまして、徐々に知名度が、また広がってまいりますので、多くなろうかと思っております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） いろいろ企画をしていただいているということで、大変期待をいたしております。こうやって八丁トンネルができるということで、嘉麻市、または北九州のほうから、飯塚のほうからたくさん、私は交流人口が朝倉市のほうに入ってくるのではないかなと思っております。それを通りすがりにしてしまうのではなく、この朝倉市に滞在してもらい、ここを回遊してもらいような、私はそういう仕組みが必要だと思っております。久留米まで抜けてしまうと排気ガスとごみしか落ちないという話も聞きますので、そうならないように、私はここでいまひとつ、この朝倉市がやっぱり知恵を出さなくてはいけないときだと思いますので、ぜひともそのあたりをよろしく願います。

それともう一つ、小石原川ダムもできまして、これも朝倉市で3つ目のダムということで、全国でも珍しいということでございます。先ほど、北川議員も質問をされておりましたので、地域活性化のために活用したいということでございますが、このダムも観光資源になるのではないかなと私は思っております。この風光明媚なこの朝倉市の中で、3つのダムがあつて、そして本当に自然豊かな地形だったり、おいしい食べ物もでございます。そのあたりを、何とかこの3つのダムと、この八丁峠のトンネルをつなぎ合わせて、何かこう手が打てないのか、観光資源として何かやれないのかと思っているんですが、そのあたりについて、取り組みがあつたらお尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） ダム湖周辺を活用しということで、多くの観光客が集客、周遊できるような魅力的な観光資源、そういった地域資源をつくれないうことについては、ただいま検討をやっているところでございます。

何か限定した施設をつくるということには限りませんが、いろいろな、あるときには駐車場にしたり、イベントに使ったりと、広場的なものがあれば、いろいろなところに利用することもできると、そのようにも考えます。

現状、そういった魅力的な空間をつくれるようにということで、復興戦略推進チームという形を今とって、朝倉市、それから東峰村、福岡県、ほかには、先ほどから話が出ております水の文化村、みずまるプロジェクト、朝倉市の観光協会、それから一般社団法人でございますが、北部九州河川利用協会、それに水資源機構の関係者が集まって、現在、協議を重ねております。今後、いろんな提案ができればと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） 今、そういう協会とか、連携をとりながら、今進めてあるということですので、ぜひともよい成果が出るようお願いをしたいと思います。

先ほど、北川議員の質問の中に、サイクルフェスティバルとか、マウンテンバイクで巡るとか、そういう話も出ておまして、私もそんなときに、ひとつ、ダムの上にオートキャンプ場があると、若者たちがここで滞在できて、もっと回遊してくれるのではないかなと思うんですね。朝倉市の魅力に触れて、住みたいとか、訪れたいという気持ちが、さらに高まっていけば幸いだと思っておりますので、ぜひ滞在する場所が少ないですね。原鶴温泉はもちろんございます。原鶴まで回っていただきたい。また三連水車もございませぬ。若者たちがちょっとマウンテンバイクとかで来たときに、オートキャンプ場とかあれば、そこでちょっと一泊して、またゆっくりこれを探索をしてみたいとか、そういうこともできるのではないかなと思っております。このダムができるときに併設したほうが、できやすいのか、さっきも話に出ておりましたが、水の文化村の水辺のふれあいゾーンとかも、すごくいい場所で、もったいないなと、活用が余りされておられませんので。あのあたりの活用もできるのではないかなと思うんですが、そのあたりについて、ぜひとも前向きに考えていただきたいと思っておりますが、何か答弁いただければお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） オートキャンプ場ということですが、現在、その利用を限定する施設というところでの、そこまでの話については、現在の計画では考えられてはいませんが、先ほど御紹介いたしました復興戦略推進チーム、そういった中で、今後、ダムの工事後の状況を見ながら、いろいろ遊歩道とか休息所とか駐車場とか、いろんな形でその可能性について協議がなされてまいります。今後に期待したいと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） ありがとうございます。今がチャンスじゃないかなと思うんですね。こういう3つ目のダムができておまして、そういう新たな復興推進チームもできておまして、ぜひともこの朝倉市の魅力を、もっともっと皆さん方にわかっただけのような、そして若い人たちが、この朝倉市に入ってきてくれるようなそういう仕掛けづ

くりとか、私は観光地づくりが必要ではないかなと思っておりますので、ぜひとも前向きに御検討をお願いしたいと思います。

そして、また八丁トンネルが開通すれば、近くには秋月もございます。秋月博物館もあり、本当に歴史の深い秋月があり、また水の文化村があり、たくさん朝倉市には文化遺産があるんですね。昨日も、徳永議員も三連水車や世界かんがい遺産に登録されている山田堰のお話もされておりましたが、本当に斉明天皇が宮を構えられた朝倉橘広庭宮跡や、天智天皇が建てられた恵蘇八幡宮とか木の丸殿とか、すごく歴史に深い、ほかにはない、本当朝倉市には、もうたくさんの宝があるなと思うんですが、そういう地域でもあります。何かそのあたりを回遊できるようなアイデアをぜひ、今私はチャンスではないかなと思っております。

そして、甘木の甘鉄駅前には、日本発祥の「卑弥呼の里」という石碑も建てられているんですね。そして、今卑弥呼の里では、卑弥呼の里だといういろいろ学説も出ておりますが、本当に古い、さかのぼっていけば、朝倉市ってすごいんだなって、歴史がたくさんあって、たくさん埋もれているような気がするんですね。まだまだ宝がいっぱいあるように思います。こういう宝をいっぱい掘り起こしながら、私はもう全国版で、今「被災地の朝倉市」だけではなくて、こういう「歴史と文化、観光の朝倉市」ということを一緒に打ち出していける時期ではないかなと思っております。そういう発信を、私はぜひともやっていただきたい、全国に発信していただきたいと思っておりますが、そのあたりについての考えがありましたらお尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（山南哲也君） 朝倉市秋月博物館を所管します教育委員会としましても、八丁トンネルの開通に伴いまして、これまでの筑紫野とか小郡、久留米から大分につながるこの東西軸だけではなくて、今後、北九州や筑豊、こういったところからの南北の軸がこれに加わることで、交流人口の増を期待しておるところでございます。

特に、議員がおっしゃいました秋月につきましては、伝統的建造物群保存地区として、地区選定をされておりますので、そのほかに神社仏閣、それから史跡、こういったものも集まっております。魅力的な地域でございます。

それで、この朝倉市秋月博物館を核としまして、現在、整備中の交流広場、それから隣接する旧戸波邸、こういったものと一体となった歴史的拠点づくりを進めているところでございます。観光地としても、さらなる魅力向上が期待されております。

また、福岡県広域地域振興課とか、筑前町、東峰村と実施しております広域連携プロジェクト事業におきまして、朝倉型グリーンツーリズム、こういったものも計画がされておりました、この中で、教育旅行モデルプランとしまして、修学旅行を当てにしております平和学習、それから歴史学習、体験学習、こういったものも交流人口の増に向けて取り組んでいきまして、関係人口につなげていきたいというふうに考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） ありがとうございます。本当に秋月博物館が今開館しております、またその前に、今施設が、また新たに増設をされているということで、さらにまた秋月博物館が充実をしてくるものだと思っております。ぜひとも平和学習ともおっしゃいましたが、大刀洗の平和記念館には、たくさん修学旅行生が来ているんですね。ちょうど平和学習で訪れております。私も行くたびに、貸し切りバスが何台もとまっているということで、大変今、予定よりも来館者が多いという、何かうれしい報告を聞きましたが。そうやって、そこまで修学旅行生が来ているということは、もう一歩足を伸ばしていただけないかな、秋月までも足を伸ばしていただいて、この秋月の文化に触れていただくというのも大事なことはないかなと思っておりますので、そのあたりもぜひとも充実をしていただきたいと思っております。

市長の最初の答弁の中に、海外からも旅行客を取り入れたインバウンドで入れたいというお話もあっていましたし、本当にそういう秋月とか魅力がいっぱいございますので、神社仏閣もございますし、そのあたりを、もうちょっとこう計画的にやっていけないものかなと思っておりますが、そのあたりのインバウンドの取り組みとかについては、どのようにお考えでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君） インバウンドの取り組みでございますけども、今それにつままして、やはりそういうものに伴う情報発信の強化と、またそのインバウンドを受け入れる、そういう環境づくりを、今現在、目指して、今後また目指していきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） 本当に仕事の多い中で、今、災害復興も大変だと思うんですが、何か今チャンスが来ているのではないかなと思っておりますので、ぜひともこの秋月も博物館も含めて、この観光地として、もう一度しっかり全国に発信をしていただきたいなと思っております。

今、朝倉のことを描かれています歴史漫画家の里中満智子先生という方もいらっしゃいます、すごくすてきな絵を描かれました、朝倉でも一回講演があったんですけど、そういう先生とのコラボができれば、何かこの朝倉市を漫画で、また全国に発信していただけたら、そういうことも考えられるのではないかなと思っております、何かこういろんな関係性をつくりながら、いろんな、朝倉に関心を持っておられる方がありますので、そういう取り込みも若い人たちには入っていきやすいのかなと、漫画で、すごくすてきな漫画なんですけど、もちろん御存じだと思いますが、そういう何かコラボなども考えていただけたら入りやすいのかなと思っておりますので、ぜひともお願いをしたいと思っております。

そして、本当これは一つの課ではできない商工観光課とまた連携をし、いろんな課が連携をしながら、朝倉市の魅力を教育委員会もそうですけどアピールして発信していただかなければいけないと思いますので、ぜひともその横断的な連携をしっかりとっていただいて、関係人口をふやすという観点で、朝倉市のファンをふやす、この朝倉市の魅力を発信して朝倉市の応援団になっていただく方々をつくっていくという観点で、この朝倉市のアピールをしていただきたいなと思っています。このことで、何か御答弁がありましたら、よろしく願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 副市長。

○副市長（中野信哉君） 具体的な御助言もいただきました、御提言もいただきました。議員のそういった御助言も参考にいたしまして、今、担当部局を中心に、来年度予算に向けての新規事業、そういったものの検討作業を進めているところでございます。

今がピンチをチャンスにかえるいいタイミングという認識も私どもも同じように思っておりますので、そういったことをこれから具体的に今、まさに作業をしているところでございますので、しっかりやっていきたいと。また、議員の皆様方にも御審議いただきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） ありがとうございます。ぜひとも、来年度の予算に生かしていただきますようお願いいたします。

観光を語ると、とても時間が1時間では足りませんので、次にちょっと移りたいと思います。

次は、働き方改革について、質問したいと思います。

6月の議会においても、朝倉市行政事務改善委員会の目的について質問いたしておりました。設置の目的が、民主的かつ能率的な行政運営を確保し、最小の経費で最大の効果を上げようと、組織の改善及び運営の合理化を図ることを目的としているという説明でありました。その後のこの委員会の進捗状況について、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 6月の段階は、まだ入り口論でございました。

その後、職員のアンケートについては、ちょうど回収の作業をあの時期行っているところでございました。まずは、事務改善に関する職員アンケートで、職員のほうから150件近くの、これは延べでございますが、提案というかアンケートが、日々業務をする中でのいろんな矛盾といいまじょうか、こうしたらいいんではなかろうかとか、そういうような内容がありました。これをまず先に、それぞれの所管といいまじょうか理解が求められる担当のほうに、まずこれをきちっとたたいてくださいということで事務作業に当たっておりましたのが、7月の中旬から下旬まででございました。これは全体の中での150件の中での20件足らずでございましたけど、その後、行政事務改善委員会、これは私、総務部長の

ほうが本部長ということで、事務的に6月3日並びに7月29日に開催をいたしました。我々、当然、部長級の中での職員で、実際、事務に精通しています主任主査、もしくは主査という最先端のほうで事務を扱っている職員の抽出を各部のほうから選出をいただきまして、それを検討会議というところの中で、さらに落としております。そこで、3回検討会議の中で協議をする中で、アンケートを踏まえた上、そして、どのようにして事務改善ができますかというところの中の具体的な事例、あるいは先進地事例等を参考というか優良事例を勘案しながら、今のところ5つのジャンルに分かれて、さらに深堀りをしているところでございます。

まだまだ途中経過でございますので、例えばペーパーレス化はもとよりです。それとか、会議の持ち方で、当然、庁内の会議もしかりでしょうけど、事前に資料の配付をして、会議時間についてはあらかじめ時間を決めておく。そして、大勢の会議で協議をすることではなくて、少数でスピード感を持って会議を決めていく、これはまだまだ決定ではございませんでしょうけど、それぞれ事務の最先端であります主査クラス、主任主査クラスの中でこういうのを最終的に、今、絞り込み作業、そして当然、行政内部のほうで行われる事務については、少しでも軽減できる、あるいは、今、当然、先ほど副市長が言われましたように、予算編成の新規事業とかいろんな時期でございますので、予算等で必要なものについては、そこを協議しているような段階でございます。大胆に言えば、タブレットとかですね。ペーパーレスというのはもう当然ありましょし、事務の効率化を図るために、会議については、もう紙をなくすというのは確かに基本的にあるかもしれませんが、まず朝倉市の今の現状において、どこまで対応できるかというのを、今、最終的な担当の検討会議の中で協議を進めておる段階でございます。

いずれ、また皆様方のほうについても、会議の持ち方とかで、また紹介ができる機会があるかと思っておりますので、まだまだ継続中の段階でございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） そうですね、まだお話できない部分もあるかと思いますが、今、公共施設の一元化とか、そういうことは議題には上がっておりませんか。やはり、こう職員の業務簡素化と申しますか、そういうことで効率を上げるために、そういうこともぜひ検討していただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 検討会議の中では、先ほど議員が言われますように、公共施設の包括管理、要は多岐にわたっています庁舎、文化施設、体育施設、学校、保育所等、いろんな市が公共として管理している施設がございます。この分に対して、ただ、これはあくまでもまだ検討の段階です。先進地の事例等も、今、検討会としては勉強している段階でございます。当然いろんな、そこにまた一括管理をすればその人的配置もございまいし、まだまだどのように展開するか、声は確かに検討会議の中では上がって

おりますが、その具体の部分、今、検討会の中で協議をしている段階でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 13番。

○13番（大庭きみ子君） 大変な作業になっておるとは思います。本当にこう非効率的な業務プロセスを見直し、生産性を上げる、効率化、簡素化をしていかなければ、働き方改革にはつながらないと思っております。大変、複雑な作業が入ってくると思いますが、ぜひとも現場の方々の声を聞き入れながら、働きやすい職場環境を作るために、そして無駄な残業を減らすということで業務を改善していただけるような、そういう取り組みをぜひお願いしたいと思っております。

また、来年度予算に向けても取り組みが、今から始まってくると思っておりますので、ぜひともスピード感を持って、やっぱり働き方改革はスピード感がなければ効果が期待できませんので、ぜひとも早めの対応をよろしくお願いしたいと思っております。

これで私の一般質問を終わりたいと思っております。どうもありがとうございました。

○議長（堀尾俊浩君） 13番大庭きみ子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時5分から再開いたします。

午後零時4分休憩